

平成29年度 第1回山北町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成29年11月13日（月）
開会：10時30分 閉会：11時20分

- 2 開催場所 山北町役場401会議室

- 3 出席者（敬称略）

- （1）委員 6名

山北町長 湯川 裕司

山北町教育委員会教育長 石田 浩二

山北町教育委員会教育長職務代理者 岡部 達也

山北町教育委員会委員 瀬戸 安美

山北町教育委員会委員 野地 泰次

山北町教育委員会委員 小菅 正子

- （2）事務局 2名

参事兼企画政策課長 杉山 浩通

企画政策課副主幹 平野 泰輔

- 4 傍聴者 1名

- 5 会議概要

- 1 開 会 参事兼企画政策課長
- 2 町長あいさつ 湯川町長
- 3 教育長あいさつ 石田教育長

4 議 題

(1) 社会教育委員会議からの答申への対応について

湯川町長

それでは、議題（1）社会教育委員会議からの答申への対応について、石田教育長より説明をお願いします。

石田教育長

資料1により説明。

湯川町長

ただいま石田教育長から、社会教育委員会議からの答申への対応について説明がありましたが、ご意見、ご質問がありましたら発言をお願いいたします。

石田教育長

5項目ある社会教育委員会議からの答申への対応について、一つ一つしっかり対応していきたいと考えていますが、公的な子どもの居場所づくりについては大きな課題ですので、事務局で検討したところ、毎週水曜日に実施している放課後子ども教室を、学習支援を含めて夏休みに実施できないかと考えたところですが、平日に複数日開催するのは困難なため、始めは土曜日の開催を検討しましたが、スポーツクラブや習い事など、様々な活動に参加する子どもたちが多いことから開催は難しいのではないかと、また、夏休みの方が居場所が少なくなっているのではないかとといった意見があり、夏休みの開催を一つの案として取りまとめたところですが、具体的な方策は決まっていますが、一つの方向性としてはあるのではないかと考えています。

しかしながら、予算も関係することですので、本日町長と意見交換させていただければと思います。

湯川町長

私も、子どもの居場所づくりが一番大事なことでないかと考えています。子どもたちが心の安心感を得られる場所、それが家庭であったり、学校であったり、学童保育であったり、友達であったり、子どもたちがそれぞれ居場所を分かっているならばその場所に戻る事が可能だと思います。しかし、家庭の中ですら居場所があるのか無いのか分からない子どもが増えている状況の中では、公的な居場所づくりは非常に大事な事だろうと考えています。一方で、根本は家庭教育にあることを忘れてはいけないと思います。

石田教育長

保護者へのアンケートによると、山北町の子どもたちは、家庭の中でスマホやゲーム、テレビで過ごす時間が非常に長いという結果が出ていますので、家に帰ってからの学習習慣の確立を図るといった面からも、今年度中学校に導入されたeラーニングについて、小学校への拡大も検討していきたいと考えています。eラーニングは、個人がパスワードでアクセスすることによって自宅でドリル学習ができるというものであり、いかに活用していくのが課題となっていますが、居場所づくりの一つになるのではないかと思います。

野地委員

アンケート結果を見ますと、保護者の中には、子どもを自分ではなく他人に育ててもらいたいという思いが強くなってきているように感じていますので、親としての役割の大切さといったものも啓発していく必要があるのではないかと考えています。

今の子どもたちは、自分へ関心を持ってもらいたいため「先生、私を見てて。」という言葉が盛んに使いますが、大学生にもそのような傾向が強いといった話を、ある大学の学長さんから聞いた時に、親としての役割が何か少し欠けた中で育ってきてしまったのではと心配することがあります。公的な居場所づくりを求められている以上、実施することは必要ですが、一方で保護者のあり方について何らかの対応が必要ではないかと思うところです。

小菅委員

実体験から、当時は学校とは別の場所に学童保育があり、放課後子ども教室も実施されていなかったのが、今は学校に学童保育があり、週1回放課後子ども教室も行われているので、私としては居場所が増えてきていると感じているところです。

放課後子ども教室は、土・日曜日はスポーツクラブや習い事、お祭り等の地域行事も多くあり、親も仕事の場合が多いため、夏休み期間中に学校で実施してもらえると、親も子どもたちも安心ではないかと思っておりますので、その方向で進めていただくと有り難いと思います。また、そのような場でeラーニングができれば、子どもたちの学習意欲も変わってくるのではないかと思います。

岡部委員

3月に町内一周駅伝大会がありますが、小中学生に参加を願いますとスポーツクラブ等で断られることが殆どで、子どもたちが忙しすぎるのではないかと考えています。忙しすぎるのが、居場所を求める子どもを増やしている原因になっているのではないかと、また、そのはけ口としてスマホをいじる傾向にあるのではないかと考えています。

湯川町長

そのほかに、ご発言はございますか。

よろしいでしょうか。それでは社会教育委員会議からの答申への対応については以上とさせていただきます、次に、議題（2）学校の働き方改革について、石田教育長より説明をお願いしたいと思います。

石田教育長

資料2について説明

県教育委員会で先生方の勤務の実態調査を実施することになり、本町においては小学校1校が抽出校として選ばれ、調査に取り組んでいるところですが、他の学校や園についても、町独自で県と同様の調査を行っていますので、年明けには山北町の勤務の実態が見えてくると思います。

そのような動きがある中、大きな課題として考えられるのが、給食費等の集金活動にかかる負担と部活動の問題です。部活動に携わる先生は多くいられるわけですが、必ずしも専門でない先生もいる中で、今後どのように対応していったら良いのか検討していく必要があると思います。

また保護者対応や調査業務等、教育委員会としても状況を把握しながら改善していかなければならない点も多くあり、予算的な面も含め、働き方改革について考えていかなければと思っています。学校側でも、教職員の負担軽減を図っていく手立てについて検討していただいていますので、本日は、町長とも意見交換させていただければと思います。

湯川町長

ただいま石田教育長から、学校の働き方改革について説明がありましたが、ご意見、ご質問などございましたら発言をお願いいたします。

野地委員

現場にいた者として、私も当時は、教員に「早く帰ろう」という話を何度もしましたが、返ってくるのは「帰れません」という言葉でした。

教員にとって一番大切なことは教材研究の時間を確保することですが、どの先生もそれが最後になってしまっているのが現状です。特に小学校の場合は全教科となるわけですが、準備ができないまま授業を続けていくと子どもたちは荒れてきます。技術的に優れた教員は何とかなりますが、そうではない多くの教員は、授業が上手くいかない現状に苦しんでいます。働き方改革を国が打ち出されたことは有り難いことですが、このような状況の中で学校現場に改革を求めるのは非常に酷であり、外部から変えていくことが必要であると感じているところです。一番良いのは教職員を増やすことですが、増員はそう簡単にはいかないでしょうし、教員の業務を少しでも軽減できるよう教育支援員等の配置が有効と考えられますが、財政的な問題もあり簡単にはいかないと思います。

先ずは、現在調査が入っているとのことですので、どのようなことが教員の負担になっているのか丁寧に分析していただき、教員の負担軽減、そして明日の授業の充実につなげていただきたいと思います。

湯川町長

現場を良く知っていただける先生方にとっては、働き方改革について本当に難しさを感じていただけることと思います。

部活の問題では、外部指導者をお願いした時に、若い指導者に来てもらえば良いのですが、一般的には平日仕事をされている方が殆どですので、退職された方でないと中々難しいわけです。しかし生徒からするとかなりギャップを感じるのではないかと思いますので、予算が確保できたとしても課題はあるのではないかと思います。

ドイツでは、保護者への連絡といった事務作業は生徒が交代で行っており、先生は授業に専念できる環境が整っているそうです。タブレット等も普及していますし、失敗もあるかもしれませんが、それも勉強ということで、生徒に自主的に行ってもらうことも一つの考え方ではないかと思います。

岡部委員

先生方が大変だと言われている中、授業時間数が 35 時間増えるわけですので、野地委員も発言されていましたが、人員を増やす等、今改善しないと間違はなく先生方はこの先潰れてしまうと思います。

瀬戸委員

実態調査の分析結果を受け、町や教育委員会だけが考えるのではなく、現場の先生方の声を聞いて欲しいと思います。担任の先生方に余裕が無くなると、教わる側の子どもたちにも影響を及ぼし、授業が思うような方向にいかず悪循環になる経験を、私も何度もしてきました。

逆に、人間が人間を育てるものですから、担任の先生と子どもたちの人間関係が良い方向に行けば授業も良い方向へ進み、雰囲気も良い方向に流れていくものだと思います。

おそらく実態調査から見えてくるのは「忙しさ」だと思いますので、現場の先生方の声を聞きながら、今より一歩でも半歩でも良い方向になるよう考えていただきたいと思います。

石田教育長

月 1 回実施している校長園長会の中で、現場の声を聞き意見交換を重ねてきました。その中の一つとして、夏休み期間中、学校に誰もいない閉庁日を設けてはどうかといった意見がありました。そうした場合、留守番電話の設置といった別の課題はありますが、何か具体的な策を講じていかなければいけないと考えているところです。

また、校務支援システムを導入していただき、先生方には、非常に有り難く思っているところですが、給食費等の公金管理についても、直ぐには難しいと思います。システム化も見据えた中で取り組んでいく必要があると考えています。

様々な視点の中で、先生方の負担軽減ができることを進めていかなければならないと思っています。

湯川町長

私も P T A を経験していますが、給食費等の集金については何かしらで先生が係わっていることが大事ではないかと考えています。負担軽減はしていかな

ければなりません、全て取り除くことは先々問題が出てくると思います。

予算があればソフト面とハード面二本立てで実施していきたいのですが、町としては現在ハード面を充実させていきたいという考えのもとに、空調機の設置等を順次進めており、教育環境の改善を図っていきたいと考えています。

それでは、そのほかにご発言はございますか。

よろしいでしょうか。それでは、学校の働き方改革については以上とさせていただきます、最後に、議題（3）その他でございますが、事務局の方で何かありますでしょうか。

事務局

特にございません。

湯川町長

それでは、本日の会議の議題はこれですべて終了となりましたので、進行を事務局にお返しします。

5 その他

（企画政策課長）

それでは、「5」の「その他」に入ります。

事務局から1点事務連絡をさせていただきます。次回の会議日程でございますが、2月中旬から下旬を予定しています。具体的な日程につきましては、改めて調整をさせていただき、ご連絡させていただきます。

6 閉会

（企画政策課長）

以上を持ちまして、平成29年度第1回山北町総合教育会議を終了いたします。委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございました。

また、傍聴者の方も大変お疲れ様でした。

以上